

# 陽春新しき

(昭和六十一年度寮歌)

原澤辰明君 作歌

山森聡君 作曲

一

陽春新しき希望満つ  
恵迪寮に若き男子等が  
野心も赤き夕手稲  
嗚呼力もて進まんか

二

盛夏短かくてストームに  
太鼓音闇に消えるかな  
朝の日露に寮歌の声  
嗚呼轟くかこの石狩平野

三

夕暮風の涼しさに  
楡の悲しみ知れるかな  
雁より暮れる原始林  
嗚呼我が憂ひすずろかな

四

北溟粉雪に荒ぶれど  
詩を忘却れぬ若人が  
理想の存在求めつつ  
嗚呼その自治寮創造くかな

五

淡き憧憬に焦れ来る  
拙き言葉操りて  
胸の内を打ち明けし  
嗚呼この青春も早や行かん

六

宴の酔狂も静寂まりて  
沈黙の彼方微かなる  
郭公の啼声の清らかさ  
嗚呼この初夏も過ぐるかな

七

北斗煌く晩秋夜  
望月写す支笏湖の波  
明日の旅路を思いつつ  
嗚呼涙して更くる夜

八

疎々たる原始林に我一人  
白雪舞う木立烈風強く  
冷徹たき真理索めんと  
嗚呼声もなく迪を行く

九

春も巡る四度に  
若き明日の祝極と  
南風頻りに頬を打つ  
嗚呼この別離永却からず